

ヒーローの賢母

辻 憲男（文学部教授）

佐用町平福（ひらふく）は兵庫県の最西部、因幡街道の旧宿場町である。川端の土蔵の景観で知られるが、東の山には中世の利神城（りかんじょう）の跡がある。赤松氏一族の別所氏が築き、堅守不落の山城であった。

1578年、秀吉が中国地方を攻略した時、利神城も上月城（こうづきじょう）も落城した。上月氏は毛利方についたため、秀吉と山中鹿之介に滅ぼされた。鹿之介は尼子氏の勇将で、主家再興を期して、強大な毛利氏に徹底抗戦した。織田信長の信を取りつけ、秀吉の先鋒として上月城に入り、美作（岡山県北部）へ出て本国出雲を奪回するもくろみだった。しかし毛利方の猛反撃にさらされ、秀吉の援軍もなく、再起の望みは断たれた。

豪傑の鹿之介は、三日月に「われに七難八苦を与えたまえ」と祈った。この非運のヒーローを女手一つで育てた母がまた偉大だった。『太閤記』や『陰徳太平記』のような軍記が、「世の常の女性には似げなく、武の道に賢きことひとかたならず」と特筆するほどだ。家貧しく、垢つき衣をまとい、麻を植えて手ずから着物につくり、鹿之介一党に与えて結束を図った。たとえ苦難の時も彼らを見捨てず、利と楽しみを分かちあうよう、鹿之介に教訓した。

赤松氏は朝廷と幕府の間で権勢をふるった。京－西国の要路、山陽と山陰を扼する播磨の山河に、戦国の修羅たちが夢を追った。



米や炭を貯え、川舟に積んで赤穂まで運んだ。
智頭急行線平福。付近は宮本武蔵の里という。